

ふくふくクラブ福岡「会員増強運動」指針

1. 趣 旨

老人クラブの会員数については、全国的な傾向でもありますが、本市老人クラブにおいても平成9年度をピークに減少しています。

会員増強運動は、平成19年3月の「福岡市老人クラブ活性化プラン（平成19年度から3カ年計画）」の策定を始め、全老連の「100万人会員増強運動」に併せた「ふくふくクラブ福岡会員増強運動」を平成26年度から平成30年度までの5カ年計画で取り組むなど、これまでも市老連の組織を挙げて会員獲得に向けた様々な取り組みを実施してきました。

しかしながら、ライフスタイルの変化や高齢者の就労等により新規会員の加入が進まないことや、会長のなり手がなく老人クラブの解散につながるなど、会員減少に歯止めがかからず、会員増強につながっていないのが現状となっています。

一方で、老人クラブは、地域を基盤とする高齢者の自主組織であり、高齢者を主体とする介護予防と相互の生活支援という観点から、その役割は今後もますます期待されるとともに、超高齢社会を迎えた今日、地域コミュニティの上からも極めて重要となっています。

老人クラブの活動基盤は言うまでもなく個々の会員であります。老人クラブを活性化するためにも、会員の増強は、我々老人クラブ関係者が総力を結集し取り組む必要があります。

そこで、会員増強のため、ふくふくクラブ福岡「会員増強運動」指針を定め、次の「運動目標」を設定し、「4つの運動」に取り組めます。

「日々の活動の楽しさや有効性」を一番熟知している会員一人ひとりが勧誘の担い手となり、単位老人クラブと全ての会員が、この運動の主体となり、自主的な運動として取り組んで行きましょう。

2. 運動目標

会員増強の運動目標を、次のとおり設定します。

- ① 1校区1クラブの増
- ② 1クラブあたり会員3人増

3. 4つの運動

会員増強のため、次の4つの運動に取り組めます。

運動1「勧誘から始めよう！」－会員一人ひとりが勧誘の担い手です－

※ 会員増強運動の成功例に共通するのは、勧誘活動です。

- ① 個人的な“口コミ”を使って、勧誘活動をしよう！

- ② まず、ご近所から勧誘活動をしよう！
- ③ 勧誘活動は、イベント・研修会など適切な時期をねらい効果的に実施しよう！
- ④ 「地域・ご近所で楽しくおしゃべりが出来る仲間が欲しい人」・「退職等により自由な時間が出来た人で、楽しく遊びたい人」・「これまでの経験を活かし、地域に貢献したい人」等を対象に勧誘活動をしよう！
- ⑤ 強引な勧誘は慎み、体験参加をお誘いしながらクラブの楽しさを伝えよう！
- ⑥ 地域（校区・町内）の自治協議会，社会福祉協議会，民生委員児童委員協議会および公民館長会等の特に役員のクラブ未加入者に対する勧誘活動を徹底しよう！

運動2「クラブをPRしよう！」－知られていますか、あなたのクラブ－

※ 会員増強には、地域の皆さんにクラブを知ってもらうことが大切です。

- ① 自治会など地域活動に積極的に参画し、老人クラブ活動を知ってもらおう！
- ② 動員事業の見直しを行い、魅力的な事業を企画しよう！
- ③ おしゃべり会，ダーツ，カラオケなど誰でも参加出来る魅力的な同好会等を企画しよう！
- ④ 「いきいきサロン」はPRの場，運営にもかかわろう！
- ⑤ ロコミ，ポスター，チラシ，会報，ホームページ等を工夫しよう！
- ⑥ 行政と連携して「介護予防活動」の輪を地域の高齢者に広げよう！

運動3「新規クラブをつくろう！」－すべての地域にクラブの設置を－

※ 会員増強には、クラブ未設置地域の解消が大切です。

- ① 校区連合会長は、新規クラブ結成・解散クラブ再生のキーマン，校区連合会長を中心として，自治協議会等の地域団体と連携しながらクラブをつくろう！
- ② 近隣のクラブをホスト役に，連携して解散クラブを再生しよう！
- ③ 高齢者の意向が多様化する中，新しいタイプのクラブを考えよう！

運動4「解散クラブ“0”をめざそう！」

※ 会員減の最大要因であるクラブ解散を防ぐため，会長後継者の確保が大切です。

- ① 常日頃から役員の後継者を育成しよう！
- ② 会長の業務・役職を他の役員と分散し，会長の業務を減らそう！
- ③ 女性又は若手を積極的に役員へ登用し，クラブの活性化を図ろう！